

第5回 広島からの平和：過去・現在・未来

《講師》

藤原 帰一

(東京大学大学院法学政治学研究科 教授)



学習の狙い

- 戦争と平和について考える
- 過去のさまざまな戦争・紛争の経験からどのような平和への考え方やアプローチが生まれたのかについて理解する
- 広島役割について考える



平和をどう考えるか

- 消極的平和
 - 戦争の不在としての平和
 - 戦争をどのように防ぐか
- 積極的平和
 - 構造的暴力がない状態
 - 人々が安全に生きる世界
 - 安全な生活をどのように実現するか

平和を
実現するためには
何が必要なのか

戦争をどう考えるか

- 人間の働きを越えた現象としての戦争
- 政策の手段としての戦争
- 戦争の制限
 - 目的・手段・主体の制限
- 戦争の禁止
 - 安全な生活をどのように実現するか



リアリズム～政策としての戦争～

- 無政府状態としての国際関係
- 国家の体系・戦争の体系
- 力の均衡による安定
- 抑止による平和



リベラリズムの国際政治観

- 絶対的平和主義
 - 軍隊と戦争の否定
- 政治的リベラリズム
 - 自由の拡大
- 経済的リベラリズム
 - 交易の拡大
- 法制度のリベラリズム
 - 国際法と国際機構



リベラリズムの国際政治観

● 第一次世界大戦 (1914～1918)

- 欧州諸国
- 総力戦

● 第二次世界大戦 (1939～1945)

- 全体主義の台頭
- 非欧州諸国へのアリーナの拡大



- 戦争による犠牲の拡大
- 政策としての合理性の喪失
- 戦争の違法化



日本の「平和主義」

- 第二次世界大戦の犠牲
- 平和憲法の受容
- 広島語り
- 原水爆禁止運動の盛衰

「平和主義」の受容

戦争の変化

- 「正戦」としての第二次世界大戦
 - ナチスドイツの侵略への対抗
 - ホロコーストの防止
- 冷戦下の国際関係
 - 核戦争の可能性→正義より力
 - 大国の対抗・地域の戦争
- 冷戦後の国際関係
 - アメリカの軍事的優位
 - 地域紛争への介入と正戦論の復活



戦争の語り方

- 広島：犠牲者としての一般日本国民
- 南京：日本人以外の犠牲者
- 靖国：犠牲者としての日本軍兵士

誰の戦争を
語るのか

戦争の
犠牲になるのは
誰か

視点（犠牲者）と目的（戦争の回避）の共有



核なき世界へ

- **核軍縮と核廃絶はどうすれば実現できるのか**
 - 核抑止の役割と限界
 - 国際機関、日本の役割
 - 国際社会、市民社会の役割



つくる平和

- 紛争から平和へ
 - 紛争に引き裂かれた地域
 - 和平合意と兵力引離
- 安全な暮らしをどう作るのか
 - 難民支援（例：中東・北アフリカ地域）
 - 開発協力と平和構築の連携



広島取り組みとその意義

被爆体験を伝える

平和を担う
次世代を育成する

核に頼らない
平和の条件を探る

核廃絶／平和を
考える中心となる

過去から未来へ

